

## 会議の開催結果について

- 1 会議名 令和3年度第1回上尾市地域包括ケアシステム  
推進協議会
- 2 会議日時 令和3年8月17日(火)  
午後1時30分から午後3時まで
- 3 開催場所 Web会議
- 4 会議の議題
  - (1) 上尾市における地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みについて
  - (2) アップー元気体操の現状と今後について
  - (3) 在宅医療介護連携について
- 5 公開・非公開の別 公開
- 6 非公開の理由
- 7 傍聴者数 0名
- 8 問い合わせ先 高齢介護課地域支援担当  
(担当課) 048-775-4190 (直通)

# 会 議 録

|   |  |                                      |
|---|--|--------------------------------------|
| 会議の名称   | 令和3年度第1回上尾市地域包括ケアシステム推進協議会   |                                      |
| 開催日時  | 令和3年8月17日(火)<br>午後1時30分から午後3時まで  |                                      |
| 開催場所  | Web会議  |                                      |
| 議長(委員長・会長)氏名  | 古谷野 亘  |                                      |
| 出席者(委員)氏名   | 西村 昌雄、榎本 昌己、村橋 憲、松本 貴行、小野 慎也、伊藤 まつ江、佐々木 典子、添田 慎子、尾上 道雄、小坂 高洋                                     |                                      |
| 欠席者(委員)氏名   | 岡林 奈津未、鈴木 愛梨   |                                      |
| 事務局(庶務担当)   | 石川健康福祉部長、畑健康福祉部次長、堀田高齢介護課長、木村主幹、山口主査、武山主任、佐藤主任保健師、古川主任保健師、辰巳(文責)<br>(オブザーバー) 大竹保険年金課主幹、関端保険年金課主査 |                                      |
| 説明者   | 在宅医療連携支援センター 民部田   |                                      |
| 会<br>議<br>事<br>項  | 1 議 題  | 2 会議結果                               |
|   | (1) 地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みについて<br>(2) アッピー元気体操の現状と今後について<br>(3) 在宅医療介護連携について                       | 別紙のとおり<br>(1) 了承<br>(2) 了承<br>(3) 了承 |
| 議 事 の 経 過   | 別紙のとおり   | 傍聴者数 0名                              |
| 会 議 資 料   | 資料1 地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みについて<br>資料2 アッピー元気体操の現状と今後について<br>資料3 在宅医療介護連携について                       |                                      |
| <p>議事の内容・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。</p> <p style="text-align: center;">R3年9月3日</p> <p style="text-align: right;">議長(委員長・会長)の署名 <u>古谷野 亘</u></p> |  |                                      |

## 議事の経過

| 発言者    | 議題・発言内容・決定事項  |
|--------|---|
| 古谷野委員長 | 本日の議題は次第の(1)から(3)までです。初めに(1)「地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みについて」事務局辰巳主査から説明をお願いします。   |
| 事務局    | (1) 地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みについて—説明—  |
| 古谷野委員長 | 地域包括ケアシステム全体の概要説明ということで、大変ボリュームのある内容だが、何かご質問、あるいはご意見のあるかたはいますか。   |
| 伊藤委員   | <p>質問だが、私は認知症の人と家族の会から参加させていただいている。6ページの認知症施策のところ、認知症の方の居場所作りとして始まったオレンジカフェの利用者数のご説明があった。その中でカフェに参加した認知症当事者の方や、認知症の家族の方はどの程度、どのくらいの方数が参加していたか教えていただきたい。</p> <p>二点目に、説明の中では触れられていなかったが、これから実施するチームオレンジの設置に向けた人材の育成について、6ページの下に記載されている。他市ではすでにフル稼働している状況である。</p> <p>今までは認知症の方のサポーター養成講座が開催されていて、全国でも1200万人の方がサポーターの養成講座を受けていると聞いている。上尾でもかなりたくさんの方がサポーターになってオレンジリングを持っていると思う。その方たちが、サポーター養成講座を受けたからといって特に何かするわけではなくて、認知症を正しく理解し、見守るということを前提にその講座が始まっているかと思う。</p> <p>それだけではもったいない。これから認知症の方の、例えば見守りだけではなくて、外へ出るときに一緒に同行するとか、いろいろ具体的なお手伝いができるような人を養成する取り組みが、チームオレンジだと思う。</p> <p>サポーター養成講座をこれからも開催すると思うが、それにあたって養成講座をして終わりではなく、サポーターとして、チームオレンジの方に移行していただける方にどのように協力していただくか、そのあたりのことをどういうふうにお考えになっているかということを確認したい。</p> <p>三点目に、今の説明の中では触れられていなかったが、認知症の診断をされる病院やクリニックに行ったときに、認知症と診断された後どうしたらいいかというようなパンフレット、例えば地域包括支援センターを具体的に紹介していただけるとか、そういうような手立てはあるのだろうか。</p> |
| 事務局    | <p>まず一点目のオレンジカフェの参加人数の内訳については、認知症当事者の方が何人この中に含まれているかという集計を行っていないためご回答できない。</p> <p>二点目のチームオレンジの取り組みや、認知症サポーター養成講座受講後に、サポーターの皆様へ今後、どのような啓発や協力の機会を得ていくかについて、現在上尾市では認知症地域支援推進員を高齢介護課と各地域包括支援センターに1人ずつ配置をしており、毎月1回オンライン会議を実施しながら、今後の事業展開を検討している。認知症の方に向けて支援をしたいという方をどのように実際の活動に繋げるか、平成28年に作成したケアパスの中身の改訂等、今後の認知症支援の事業展開について検討を進めているところである。</p>   |

|        |   |
|--------|---|
|        | <p>具体的には、認知症地域支援推進員とともに、平成 31 年度に認知症サポーターステップアップ講座を実施した。令和 2 年度からはコロナウィルス感染拡大に伴い、集合型の事業を中止しているが、認知症サポーター養成講座終了者に対して、継続的にステップアップ講座を実施できれば、認知症の方を直接的に支援したいという方の協力を得ることに繋がっていくかと思う。引き続き検討を進める。</p> <p>また最後のご質問の、認知症に関する普及啓発の紙媒体についても認知症地域支援推進員とともに検討を進めている。伊藤委員からのご意見も、今後の取り組みの参考にさせていただきたい。</p>   |
| 古谷野委員長 | オレンジカフェと、認知症初期集中支援チームについて、表の中に数字があるが、これは延べ人数だろうか、実人数だろうか。   |
| 事務局    | 延べ人数である。  |
| 古谷野委員長 | オレンジカフェ参加者のうち、認知症当事者は何人参加しているか。   |
| 事務局    | 内訳については集計および公表をしていない。   |
| 古谷野委員長 | 伊藤委員、よろしいだろうか。  |
| 伊藤委員   | <p>オレンジカフェの参加者に関して、当事者の実人数はわからなくても良いが、私の印象では、オレンジカフェのプログラムは講座中心で、楽しい講座なので、認知症の方というよりも、地域の方が楽しみに来ているというような感じを受ける。</p> <p>できればもう少し工夫をして、認知症の方にも参加しやすいような中身だといいなと常々思っている。間違っていたら申し訳ないが、認知症の方はほとんど参加できていないのではないかなという感じを受けていた。</p> <p>サポーター養成講座について、実際私もそのお手伝いさせていただいているが、1 時間半の中では、テキスト紹介というかテキストを学ぶというだけで、いっぱいいっぱいになってしまう。</p> <p>関心を持って参加してくださる方たちなので、お話し合いみたいな形の時間があったら、チームオレンジの方にも協力していただけるのではないかと思う。例えば 1 回の講座だけではなくて、特に関心のある方には、もう 1 回、さらに深く学べ、その地域の中でどういうことをするといいというような講座があるといいなと思っている。</p> <p>また、先ほどの紙媒体の件は、認知症の人と家族の会で委託を受けており、若年性認知症サポートセンターなどの相談機関があるが、そういうパンフレットもたくさんあるので、必要があればいくらでもお持ちできる。ぜひそういう資料も医療機関に設置していただけるといいのではないかなと思う。</p> |
| 古谷野委員長 | 最後のご質問は、クリニックで医師の確定診断がついた後の話という事だったかと思う。どこへ繋いでいただけるのかということになってくると思うが、医療機関の方では何かお考えになっているか、西村副委員長にお聞きしたい。  |
| 西村副委員長 | ご本人やご家族のご意向をお聞きし、検査や治療に対応する。介護に関してどのようなことを期待するのか、ご家族が介護をするのか、施設入所を検討していくのかなど、医療機関としては、認知症の人の支援窓口を紹介し、もし希望があれば、ケアマネジャーと連携しながら対応していくようにはしている。   |

|        |  |
|--------|--|
| 古谷野委員長 | <p>ありがとうございました。大変心強い仕組みができていているというふうに考えていいと思う。</p>   |
| 尾上委員   | <p>オレンジカフェを市が開始する際、高齢介護課が川越市へ視察に行き、私も他の支援者と一緒に、当時同行させていただいた。市が実施する川越の実際のカフェの様子を見せてもらった。川越では認知症当事者の参加が多かった。自分たちのカフェでは、認知症当事者の参加は少ない。先進的に活動している川越等に一回どうやったら当事者が参加できるのか、仕組みを学びに行き、交流をはかってみるのも一つの方法ではないかと思う。</p>   |
| 榎本委員   | <p>認知症に対する具体的なケアというよりも、認知症の人たちをどうやって拾い上げているかを確認したい。歯科医院の場合は、基本的には予約で来院してもらうため、家族の方がいる場合は、家族に対して様子がおかしい、認知症かもしれないよと助言することができるが、つい最近あったケースでは、一人暮らしの高齢者で、かなり認知症が進行してしまっている場合である。予約を取っても、予約通りに来院できないし、保険証を返却できないというところでもトラブルが発生した。その方のために、歯科装具を作製したが、セットする前に実は自宅で亡くなってしまっていたということがあった。歯科医院に単身高齢者が来て、認知症がかなり進んでいると想像できたときに、歯科医院からアプローチするような場所はあるだろうか。この人ちょっと心配ですよ、とか危険ですよという時に、繋げられるところを教えてください。</p> <p>認知症で医療や介護などの支援を必要とする人がいたら、なるべくこういうところに連絡してくださいと案内できるシステムや仕組みがあれば、今後、私の方でも歯科医師会にフィードバックし、伝えていきたいと思う。</p> |
| 事務局    | <p>単身高齢者の介護予防や、認知症の対応について、どのように支援していくかは喫緊の課題だと認識している。</p> <p>歯科医師から見て気になるなという患者が来院した場合は、地域包括支援センターや市の方に情報提供していただきたい。また、もしご家族がいらっしゃる場合で、一緒に来院できる場合にはご家族を通じて地域包括支援センターをご案内いただくという形をとり、介護の認定申請など必要な手続きを支援していきたい。</p>  |
| 古谷野委員長 | <p>よろしいだろうか。地域包括支援センターへ案内していただければということである。</p> <p>地域包括ケアシステムについては、4つの柱で進めているという説明であった。医療介護連携、認知症施策推進、生活支援、介護予防、このうち、今、認知症施策についてのご質問あるいはご意見を頂戴した。医療介護連携と介護予防については、このあとの議題でまた取り上げられることになろうかと思うので、生活支援について何か、ご意見あるいはご質問のあるかたはいるだろうか。生活支援に一番近いのはケアマネジャーの添田委員だが、どうだろうか。</p>   |
| 添田委員   | <p>生活支援に関して、現在どれくらい認定ヘルパーが活躍されているのかを確認したい。私の所属する事業所の利用は要介護、要支援認定を受けている方が対象だが、事業対象者や要支援の方たちなど、利用される方がコロナの影響をうけているのか、あまり認定ヘルパーを希望されないという事実があるのかなということも考えられる。</p>   |

|        |   |
|--------|---|
|        | <p>実際認定ヘルパーがどのぐらい現場で活躍してらっしゃるのか確認したい。また、初任者研修を受講したヘルパーではなく、生活支援をしてくださっている方たちが、コロナによって活動を休止されているというのを耳にするので、現在、どういう活動されているのか確認したい。</p>   |
| 事務局    | <p>認定ヘルパーの養成講座については、生活支援体制整備事業の委託事業として実施をしており、これまで300名以上の方が講座自体を終了している。</p> <p>ただし、認定ヘルパー養成後の活躍の場に関して、市として就労支援をしたり職業紹介したりということを行っていないため、具体的に、認定ヘルパー受講修了者がどのような活動に関わり、どのようにサービスの提供主体と繋がっているかという実態や活動実績は持ち合わせていない。</p> <p>現在、認定ヘルパー養成講座は、初任者研修の情報提供や介護に関する入門的研修等に移行しており、介護サービスの担い手の確保に関しては、別の事業での事業展開をしている。</p> <p>住民主体のサービスの利用状況については、8ページの訪問型サービスBの活動実績として、2団体が活動している。平成31年度までは3団体が実施をしていたが、1団体についてはコロナの影響により、活動を休止しているという状況かと思う。</p> |
| 古谷野委員長 | <p>今のご意見や説明にもあったように、やはりコロナの影響があり利用される方も躊躇されるし、それから、提供する側も実施を躊躇しているところがあると思う。しかし、生活支援サービスが必要なくなるということではない。特に訪問型サービスBを提供できるような団体がもっと増えてくれることが望ましい。上尾市全体の中で、2団体とか3団体というのはあまりにも少ないというふうに思う。これについては行政がある程度バックアップをしていかないと、少なくとも立ち上げのところまでは支援が必要なのではないかと思う。ぜひご検討いただきたい。</p>  |
| 尾上委員   | <p>生活支援に関して、上尾市にはURの大規模団地が四カ所あるが、すべてに、生活支援アドバイザーという職員をURが配置し、各団地に1人ずつ常駐している。生活支援アドバイザーとの連携に関してはどのように受け止めているか確認したい。</p>  |
| 事務局    | <p>各団地で生活支援アドバイザーの皆様が、地域住民のコーディネート役、あるいは支援の情報提供の窓口になっていただいているということは把握している。各団地が主催する、アドバイザーを中心とした連携会議や協議体などの参加者という立場で面識はあるものの、市が組織として、直接的にアドバイザーの皆様と協働で活動したという実績はない。今後取り組みについて検討したい。</p>  |
| 尾上委員   | <p>ぜひ連携をしていただきたい。ご存知のように各団地ともに年金生活の高齢者が6割以上を占めている。かつてはURの団地住民は中流階層だという話があったが、今は年金生活の方が多く、生活支援に関しては経済的な面も含めてかなり深刻で、自治会への相談もかなり相談件数がふえている。</p> <p>ぜひアドバイザーとの連携をしていただき、私どものサポートが必要ならば、URの方との仲介役として協力はできるので、ぜひ前向きに検討していただきたい。上尾市民全体の8%位を占めている。ぜひよろしく願いたい。</p>   |
| 古谷野委員長 | <p>尾上委員がルートをつけてくださるということなので、だいぶ前進できるだろうと思う。</p>   |

|        |  |
|--------|--|
| 佐々木委員  | <p>生活支援のところでは上尾市社会福祉協議会の上平支部ではコロナ禍で、集まらなくても繋がる取り組みを去年から進めている。</p> <p>サロン通信の定期的な発行や、サロン活動をしてくださるボランティアの方たちが2ヶ月に一度、公園の林の中でアッピー元気体操を実施するなどで繋がりをずっと保ち続けている。</p> <p>コロナがなければ、笑顔で集まれると思うが、色々な活動が中止してしまうことについて、支部社協としても本当に困っている。</p> <p>緊急事態宣言が発令されてしまったが、顔を見せて欲しいという高齢者の方がたくさんいる。上平支部では70歳以上の単身高齢者が830人いる。安否確認を含めて、様々な取り組みを検討している。</p> <p>活動を担っていただくボランティアも高齢になって、担い手不足を痛感している。7ページの今後の取り組みのところにもあるが、今年度も孤立防止やフレイル予防等できる範囲で協力したいというボランティアさんもたくさんいるので、コロナ対策の徹底をしながら気をつけて活動を続けていきたい。</p> |
| 古谷野委員長 | <p>今上平支部のお話があったが、地域の中には支援活動をしたいという希望をお持ちの方もたくさんいらっしゃるだろうと思う。またちょっとした支援を受けることができればいいなと思っていらっしゃる方もたくさんいると思う。コロナという障壁はあるが、うまくそこを繋いでいくことができればいいなと思う。その辺は行政や社協支部でもぜひご検討いただきたい。非常に幅広い内容となるため、ご意見やご質問はたくさんあるだろうと思うが、次の議題に移りたい。2番目の議題(2)アッピー元気体操の現状と課題について、事務局古川主任から説明をお願いします。</p>   |
| 事務局    | <p>— (2) アッピー元気体操の現状と課題について—説明—</p>  |
| 古谷野委員長 | <p>あまり十分な時間を取れないのかもしれないが、大きな話でもあるのでご意見やご質問を頂戴したい。</p>  |
| 尾上委員   | <p>一つだけ伺いたい。上尾市としてはアッピー元気体操をどうしたいと考えているか。普及させていきたいのか、住民に任せたからあとは知らないよと言いたいのかどちらだろうか。</p>   |
| 事務局    | <p>アッピー元気体操の事業種別としては、一般介護予防事業に該当する。一般介護予防事業として、今後住民主体で発展させていきたいと考えている。アッピー元気体操は型の決まった体操として、これまで浸透してきたということもある。今後住民主体に移行した際にプログラムやメニューの一つとして活用していただければと考えている。</p>   |
| 尾上委員   | <p>おっしゃることはわかる。ただ、各地域で様々な活動を行う時に、地域の活動リーダーが減少気味だという現実がある。行政が地域の活動リーダーをどう育てていきたいのかという考えが見えない。市の財政がかなり厳しいという状況の中で、市の説明を聞いていると、あまりそう思いたくはないが、お金がないから事業を引き上げたいというように聞こえる。本当に介護予防に力を入れるなら、その意気込みが見えるような施策が必要。全部お前らに任せたから、私たちは手を引くぞ的な説明の仕方というのはあまり好ましくないように思う。</p>   |

|        |  |
|--------|--|
| 古谷野委員長 | <p>厳しいご指摘ではあるが、確かにそう聞こえてしまうところはある。市が活動の中心であるかのように続けてきてしまったことに問題はあったが、住民主体で運営できるようになる支援に切り替えていくというような言い方をしていただくと、もうちょっとついていける気もする。</p>  |
| 事務局    | <p>フォローしていただいてありがとうございます。まさにその通りで、現在コロナによってアッピー元気体操のような集合型の事業が出来ない状況である。今後も終息の時期は全く見通しが立たず、このまま中止していいのかといった懸念がある。</p> <p>できることからフレイル予防に繋げていきたい、そのために一般介護予防事業を見直している。持続可能なあり方を考えたときに、先ほどご提案させていただいたような住民主体の活動を提案している。予算要求もあるため確定的なことは言えないが、市も財政的な支援も含めサポートしていきたいとは考えている。</p>  |
| 古谷野委員長 | <p>コロナ禍で、活動が制約されることに関しては回避できないということもある。少なくとも今年度中の改善は難しいとは思う。ただ、考え方によってはこの間を、その準備期間と考えて、住民主体の団体作りを行う期間にしましょうというふうには発想できないものだろうか。</p>  |
| 事務局    | <p>委員長のご指摘のとおり、市の主催から住民主体に移行するため、今がまさに移行期という捉え方をしている。今まで活動してきた団体については、今後、こういう形でやりますという説明をし、これから活動したいという団体には、活動へのフォローアップもある。活動しないと言っている既存会場についても、今後地域の団体等と連携しながら、どういった形で活動できるかといったところを模索していきたいと考えている。</p>   |
| 古谷野委員長 | <p>正直に説明しすぎてしまったところがあるのかもしれないが、新しい形でのスタートに向けて、移行のための準備期間ということで進めていただければ良いと思う。</p>  |
| 佐々木委員  | <p>うちの自治会も89歳の方がリーダーだった。私も含めて説明会に参加した。リーダーの担い手がいないため、結局活動団体は解散しようということが決定したが、せっかく今までやってきたので、どんな形でもいいから残したいというのが私の願いである。</p> <p>上平塚のアッピー元気体操は毎週、20人弱が参加している。近隣の自治会のリーダーにも来ていただいて、ずっと継続させてきた。今回こういう形になると聞き、自治会連合会に3月に周知していただいた時、住民主体になるため自治会でも協力してくれないかという話はなかったような気がする。私としては、これからは地域の中で自治会が大きな役割を担っていくので、その辺の相談をして欲しかったと思う。</p> <p>それから、私は去年と今年と、リーダー養成講座に申し込みをしたがコロナで中止となってしまった。アッピー元気体操がとても好きで、職場でも利用者さんと一緒にやったりしている。いいものはやはり残していくというのは大事かと思う。自分が自治会長として活動している限り、アッピー元気体操をだんらんの家の活動の中に取り入れていくとか、サークル的な部分でやっていこうかなと考えている。市にもそうした活動のサポートを依頼したい。</p> |
| 古谷野委員長 | <p>ありがとうございました。男性の参加が少ないことに関しては、全国的な傾向</p>   |



|                        |   |
|------------------------|---|
|                        | <p>としてある。私の大学院に、越谷市の地域包括支援センターの管理者が入学し、男性参加者をどうやったら増やせるかという研究をした。可能性の一つとしては自治会から、リーダーを担ってくれそうな人をご推薦いただけるようにすると、男性も乗ってきやすいということもある。</p> <p>佐々木委員が今言われたのは、そこを言って欲しかったというご意見だったのではないか。</p>   |
| 佐々木委員                  | <p>リーダーの中に男性もいるといい雰囲気になると思った。私の任期中に立ち上げを頑張っていきたい。</p>   |
| 古谷野委員長                 | <p>自治会というのは一つの有効なルートであるということだが、市が全く手を引くというのではなく、むしろ市が今まで以上に住民主体の活動をサポートするんだという意気込みを、伝えていただきたいと思う。</p>   |
| 伊藤委員                   | <p>感想として、なぜ、この時期にそういう決断をしなければいけないのかと思う。リーダーの方も含め、今、みんな何かを始めるにも、下向きになっている。そんな時、こんな大事な決断をリーダーの人がしなければいけないというのは厳しいと思う。今佐々木委員のお話を伺ったように、出来そうなところから順番に市から説明していくならばいいが、いっぺんにやるかやらないかの決断を迫っている。参加者の人たちは、今コロナだから我慢していて、再開されるのを楽しみにしている。リーダーが活動を続けられないということになると、その地域のアッピー元気体操がなくなってしまう。そうすると参加者はもう行くところがないというか、行かれなくなってしまう。</p> <p>もう少し判断をしていく期間だとか、その準備だとか、そういうことを考えていただきたいと思う。</p> <p>80ヶ所まで会場を増やしていくことは大変なことだったと思うし、80ヶ所には参加している方が何人いらっしゃるか、かなりの人数の方が参加している。とてももったいないと思う。</p> |
| 古谷野委員長                 | <p>はい、ありがとうございました。本当はみなさんのご意見をもっと伺いたかったが、時間も少なくなってきたため次の議題へ移らせていただきたい。</p> <p>議題③在宅医療と介護の連携について、①上尾市在宅医療介護連携支援センター民部田氏より、②高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施について、事務局 佐藤主任より説明をお願いしたい。</p>   |
| 医療介護連携支援センター<br>民部田看護師 | <p>(3) 在宅医療介護連携について</p> <p>① 在宅医療と介護の連携について—説明—</p>   |
| 事務局                    | <p>② 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施について—説明—</p>   |
| 古谷野委員長                 | <p>残り時間も限られているため、医師である西村副委員長にひと言だけお聞きしたい。</p>   |
| 西村副委員長                 | <p>いろいろとこれまでの活動を振り返り、今年度からアッピー元気体操の見直しがなされた、また、新しい取り組みとして入退院支援ルールを策定する。</p> <p>そして、ACPの話は、民部田さんからもご説明があったが、非常に大きな問題であり、大事なことだと考えている。この考え方は、アメリカでは自然発生しているが、日本では国から降りてきたもの、という受け止め方になってしまう。</p>  |

|        |  |
|--------|--|
|        | この考え方を根付かせるために、私たち医師も、どこまで ACP を普及させるかということは、非常に重要なことである。この協議会でも、今年度の大きな検討事項として話し合っていたきたい。   |
| 古谷野委員長 | ありがとうございました。他にもご意見をいただきたいところだが、すでに予定の時間を超過しているため、この議題についてもここまでということにし、次第の (4)、その他について事務局からご説明いただきたい。   |
| 事務局    | 今年度の会議は、次回 10 月から 11 月と 2 月から 3 月の計 2 回を予定しているのでご協力お願いしたい。   |
| 古谷野委員長 | 今日は予定時間を過ぎてしまい申し訳なかった。鴻巣保健所長の小坂委員にも多忙な中、ご参加いただきありがとうございました。<br>最後に西村副委員長にご挨拶をいただいて本日の会議を閉会したいと思う。  |
| 西村副委員長 | この協議会にはディスカッションすることが沢山ある。今日も 1 時間半みっちり使ったが、どこまで今後の発展に繋げていくことができるか、私も自信はないが、基本的には自助互助の精神で色々な活動を行っていくこととなる。<br>アッピー元気体操の件も、残念ではあるが、これについては、いつかは市が住民主体の活動に全面的に移行していくものだととらえていた部分もある。<br>また、新たな入退院支援ルールや ACP も、今後の課題として提言されている。「わたしノート」に関しても、まだ、十分活用されていない段階であるし、埼玉県でも、ACP に関する類似のノートを作製しているので、ぜひ市の方で、普及のための体制を整備していただきたい。<br>将来的に私たち民間の活動に移行させていくことはやむを得ないことと思う。この件に関して、一方的に市を責めるのもちょっと酷じゃないかなとも思う。実情に応じた地域包括ケアシステムを、これから皆さんで作っていかねばいけないと思っている。 |
| 古谷野委員長 | これで、本日の令和 3 年度第 1 回の地域包括ケアシステム推進協議会を閉会する。ご協力ありがとうございました。   |